

第10回 ことう地域チームケア研究会



くすのきセンター

1階 研修室

平成26年9月9日(火)

交流会

- 講演を聞いた感想・もっと知りたいこと
 - 自分の職種では何ができるか など
- ❁ グループ発表後は、自己紹介タイムです。

- 地域包括の役割を知る、具体的な話が聞けた。
- 実際の中で、どこまで踏み込んでいいのかと悩む。担当者も不安を抱えている。ケアマネジャー自身が押しつぶされそうになることもある。地域包括とも協働していくことが大切だと思う。
- 住宅改修等、費用が発生する支援を考える時、家族の関わりや理解を得ることが必要になるがそこが大変。
- 地域包括にも、基幹型(市町村直営)と委託がある。

- ケアマネジャーが考え方の整理をして地域包括がケアマネジャーがうまく動けるようにする、指導する役割があるのでは？
- 事例は、ごみ屋敷の掃除ととらえるのではなく宝物として、価値あるものとしてとらえることで利用者さんの生活を大切にし、信頼関係が形成できた。
- (学生の意見) 包括の役割が分かった。
- (訪問看護から) 包括との連携に期待する。
- 自治体や担当者による違いもあるかもしれないが、どこまで深くかかわれるのかが大切。地域包括としてどこまでケースを詳しく知っているか。

- 地域として見ると、公ではできない部分をどう構築していけるのか。住民との役割分担も大切。
- 薬局ではケアマネジャーとの連携はしているが、地域包括とは何をしているのか、今まで知らなかった。地域包括はいろいろなケースに介入するのに人員的に足りているのか？
- ケアマネジャーは、業務の範囲があるようでない。いろんなことに取り組んでいかないといけない状況がある。抱え込まないようにしたい。
- 地域包括が目指すべき方向の報告であった。

- 地域包括でも直営と委託で住民の受け入れも違うのではないかと感じる。
- 視点を変える関わりが大切だと思った。事例は、地域包括として関わる際の参考になった。
- 報告のような事例は他にもあるのでは？介入の方法、工夫について知りたい。また、包括のバックアップのポイントを知りたい。
- 薬局の方から、認知症で支援が必要と思われる人に気が付いたら相談窓口として包括に相談したらいいのだと思った。

- 例えば、薬局に何度も薬をもらいに来ていると方がおられるというような情報も地域包括に入るとありがたい。個人情報取り扱いという課題はあるが。
- 家族がいればいいが、一人暮らしで身寄りがない時は医師に処方を確認したりしている。地域包括で医師に連絡を取ってもらえるとありがたい。
- 地域包括の職員の目の届くところは限られているので、いろんな人から情報が入るようにするべきだと思う。
- 顔が見える関係が大事、地域づくりの大切さを感じる。

- 地域包括は彦根には5つあるが、総合相談が多く予防プランに取り組めない、また、予防プランが多く地域に出ていきにくいなどといった課題がある。
- キーパソンがおられないことが多く、家族間の調整も難しい。連絡が取れない。
- 医療相談室としては、いろんな相談窓口があり、ありがたいと思う。
- すべて介入が必要なわけではない。実態把握や見守りも大切。
- 地域包括のことを市民にもっと知ってもらう必要があるのではないか。

- 本当に困ったことがないと援助を必要としない人がいるが、その時も援助を終了しないで、見守り等を継続していくことが大切で、民生委員とも連携できるとよい。
- 薬局での関わりについて、自分で助けを求められない方もいるので、そんな場合の相談窓口として包括を利用してはと思った。個人情報に関しての取り扱いは難しく対応が遅れていることもある。
- 困難な事例にまっすぐ向き合い、傾聴、共に考え動くことの重要性が学べた。利用者に共感しながら関わられたことがよかった

- これまで、地域包括に対してどのようなことを頼んだらいいのかわからなかった。地域包括につなげその後の経過を相談受けたところに返していくことができると新しいつながり、関係性づくりができるのでは。
- 生活で困ったことをスーパーや地域のお店がしてくれていたりすることもある。
- 地域のコミュニティーを充実させる必要があるのではないか。
- コミュニティをしっかりとするには官民のスクラムが必要。昔からお世話になった人を、おばあちゃんだから助ける まちづくりを！